

# 我が職場の安全活動

福島・日義担当区事務所 木内重明

## 要 旨

当担当区では、昭和54年に公務災害が発生して以降、今日に至るまでの間、無事故無災害で経過してきており、安全で活気のある職場を作っていくために“いかにして基本のっとり、かつ円滑に仕事に進めるか”が決め手であり、なにより大切な柱であると考え全職員が進んで実践してきたものである。

## はじめに

当担当区では、昭和54年7月以降153,000時間とまだまだ少ないが、一人一人が9年6カ月という長い間、幸いにも無事故無災害でこんにちを迎えることができた。これも以前のにかい経験を教訓として、同じような災害を二度と繰り返すまいと作業員一人一人が堅く心に決め、努力してきたことの成果だと考える。10年間という区切りを前に、いま一度初心に戻り、自分達の安全作業を再度見つめなおす意味も含め、これからの抱負を発表する。

## I 職場の概要

私共の担当区は、福島営林署から東へ約8kmの、木曾養仲旗揚げの地として有名な日義村宮の越

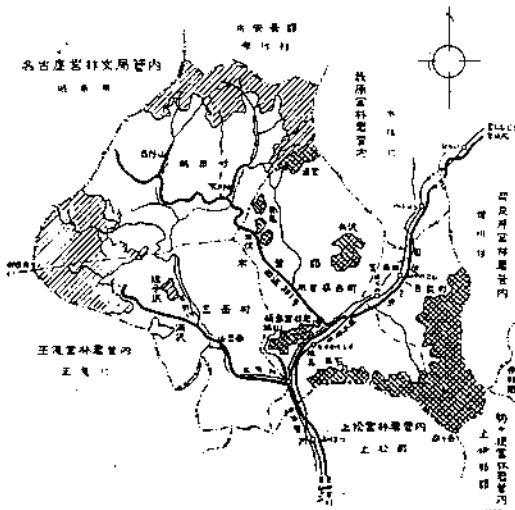


図-1 位置図

に位置し、その管轄する国有林は大小合わせて10団地を数え、福島営林署全体の約20%の造林事業を担当している。

担当区に所属する基幹作業職員は総勢6名で、平均年齢51.6歳、経験年数は平均32年である。通勤はミニバスで行っており、3名が1カ月交替で運転をしている。

安全面からみた特徴

- ・比較的急峻な作業地が多い。
  - ・冬期には、作業の中でも危険性の高い枝打作業の比率が高いこと。
  - ・飛び地の作業地が多いため、交通量の最も多い時間帯に主要国道等を利用しての通勤が主であり、交通事故防止が大きな課題となっていること。
- などである。

## II 私達の日常の安全活動

安全作業を確保するためには、毎日の仕事を“いかにして基本にのっとり、かつ円滑に進めるか”が決めてであると考え、そのための方策については、これまでも多くの先輩方がこのような場で発表され、また、営林局等上郎からも指導されてきたが、要はこれを自分たちのものとして、どう消化し定着させるかということだと思ふ。

担当区では、いわゆる自分達流にこれらを定着させてきた結果、健全なチームワークが発揮されるとともに、基本動作など安全意識の高揚に大きな成果を上げることができたのでいくつかその内容をあげてみる。

### 1. 呼びかけ及び声掛け

各自が配置につく際、週の安全当番がその日その日の現地の状態にあわせ、足場・手元の安全確保、上下の位置の確認などについて、みんなに呼びかけ各自が声を出し合って確認している。

### 2. 相互注意

つい遠慮してしまいがちであるが、これは仲間のためであり、またその家族のためでもあり、ひいては自分自身のためでもあるのだという考え方に徹し、“上下作業になった”、“あぶない動作をしている”など、見ていて“危険だなあ”と思ったことについては、遠慮なしに気がついたときにその場でお互いに注意しあい、されたものは素直に耳を傾けるよう心がけている。

### 3. ミーティング

当日の作業内容・危険箇所の周知、各自の体調、ニュース、ハット・ヒヤリ体験とその対策、災害事例の対策などについて、短時間ではあるが安全当番が中心となって話し合い、常に安全に対する意識をもつようにしている。

### 4. 週間安全目標の設定

安全当番が、その週1週間の作業にあわせ安全・健康・そして交通安全の3つの項目について目標をもうけ、週の始めにみんなに発表し意見を集め、みんなで決定し見やすい所に掲示し、お互いにこの目標達成のために取り組んでいる。

今週の安全衛生重点目標  
 霜による足元に十分に気をつけよう、滑落、転倒に気をつける

刃物の取扱いに注意  
 金鋸を張る時目をこまめに

寒さで身体にこもり時期に  
 より足元等にも十分に気をつけよう

朝夕の交通には十分気を  
 付安全運転に努める

目まぐるしい健康管理に努める

## 5. 安全日誌の活用

安全衛生日誌

年月日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	作業員名
11月2日	11月3日	11月4日	11月5日	11月6日	11月7日	行末 家 康
① 現場作業の状況	② 作業員の状況	③ 作業中の危険箇所	④ 作業中の危険箇所	⑤ 作業中の危険箇所	⑥ 作業中の危険箇所	
11月2日の内容、11月3日の内容、11月4日の内容、11月5日の内容、11月6日の内容、11月7日の内容、11月8日の内容、11月9日の内容、11月10日の内容、11月11日の内容、11月12日の内容、11月13日の内容、11月14日の内容、11月15日の内容、11月16日の内容、11月17日の内容、11月18日の内容、11月19日の内容、11月20日の内容、11月21日の内容、11月22日の内容、11月23日の内容、11月24日の内容、11月25日の内容、11月26日の内容、11月27日の内容、11月28日の内容、11月29日の内容、11月30日の内容、12月1日の内容、12月2日の内容、12月3日の内容、12月4日の内容、12月5日の内容、12月6日の内容、12月7日の内容、12月8日の内容、12月9日の内容、12月10日の内容、12月11日の内容、12月12日の内容、12月13日の内容、12月14日の内容、12月15日の内容、12月16日の内容、12月17日の内容、12月18日の内容、12月19日の内容、12月20日の内容、12月21日の内容、12月22日の内容、12月23日の内容、12月24日の内容、12月25日の内容、12月26日の内容、12月27日の内容、12月28日の内容、12月29日の内容、12月30日の内容、12月31日の内容						

11月21日 ~ 11月24日

安全衛生日誌担当区主任 殿

回覧	印	安全管理者の連絡事項
総務安全	●	凍結・積雪の時期には十分足元に注意のこと。
主任安全管理者	●	本州管内の通勤は、朝夕の時間帯に注意すること。交通安全の十分注意を呼びかける。
庶務課長	●	朝夕寒くなり、風邪をひく人が多いようです。集団の維持に努めて下さい。
担当者	●	霜の降り始めるので、足元に十分注意すること。交通安全の十分注意を呼びかける。

安全日誌の内容としては、毎日の作業内容や声掛け運動、安全対策の実行状況や、ハット・ヒヤリとしたこと、あるいは災害速報等による災害事例とそれらに対する自分達の対策、更に署管理者・係長や主任より指導を受けた内容等を記入している。

それを1週間分づつ署へ提出し、それに対し署から安全管理者の連絡事項が日誌に添付され返っている。それには注意事項・叱咤激励文等が記載されているので、それをミーティング等に活用し励みとしている。

#### 6. 安全のさきどり

安全については“待った”は通用しないわけであり、安全のさきどりは絶対不可欠のものである。そのため次のようなことを行っている。

##### (1) 安 慰

安慰は作業種が変わるときは、特にしっかりと全員がおなじ意識をもてるよう、安全当番が司会となり行っている。(現地状況、作業方法、動作など)

##### (2) 道 具

昔、刀は武士の魂とまでいわれたようであるが、わたし達にとっても道具は何よりも大切であり、自分達の分身であると言っても過言ではないと思う。このような認識をもつことが刃物の先まで神経を傾けることとなり、隠れた危険を予知する目と気持を育てているように思う。

##### (3) 砥石がけ

作業基準が改定される以前から安全性を第一に、自主的に刃先を前方に向け砥石がけを行ってきた。

これは、誰に言われるともなく、かなり昔より各人が考え行ってきたとおり、何故こうなったかは誰も覚えがないが、切れ味はさほど他に引けを取るようなことは断じてない。

##### (4) 各種器具の改良

作業に応じて、自分達にあった各種器具の改良を、天気の良いときなどに行ってきた。

##### (5) 意志の疎通

例えば、作業中やむを得ず刈り払いなどを行っている人の横を通るようなときは、必ず一声かけ、相手に自分の意志が伝わったことを確認してから通るようにしている。

##### (6) 防衛運転など

前にも述べたように、現場までの通勤の大半が国道を通過の通勤であり、特に冬期は近隣に木曾福島スキー場をはじめ3つ以上のスキー場が控えていることもあり、交通事故防止については、安全運転五則と防衛運転を鉄則とし安全運転に努めている。

#### 7. チームワーク

わたし達の造林事業もつまるどころ、おたがいの連携プレーによってなっている。

健全なチームワークが的確に必要な場で発揮されることが、効率的な安全作業を確保する上で不可欠の条件である。

そのための基礎となるのは、職場中でのお互いを気遣い、助けあい、悪いことは悪いといえる良好な人間関係作りであり、次のような取組みをしてきた。

##### (1) 安全懇談会など

それぞれ個人の持っている疑問、意見、提案等を遠慮なしに出しあい、とことんまで話しあい、その上で、みんなが納得できる対策をたて、これをみんなで実行するようところがけている。

##### (2) 作業配置など

体の大小・腕力の差など、個々の技量や体力、その日の体調にあった作業配置になるよう、お互いに配慮しあっている。

##### (3) 何でも話しあえる環境

仕事のこと、健康のこと、家族のこと等、互いに気軽に何でも相談し合い、アドバイスできることはお互いにカバーしあい、叱咤激励すべきところは遠慮なくするといった環境作りを心がけている。

ただここで注意しなければならないことは、言っていないことと、絶対に言ってはならないことのけじめをきちんとしなければならないことであり、そのことには気を配っている。

##### (4) レクなど

人間関係作りの一方のかなめとしてインフォーマルな行事があるが、私達は誰か一人でも参加できないということがないように調整しあい、積極的に全員参加するよう心がけている。(旅行、レク他)

そして、これら大きな1~7までの項目を積極的に行って行くための根底にあるものは、やはり“山を愛する心”ではないかと思う。これは、言い替えば、仕事に対する熱意、安全に対する熱意と言ったものだと思う。

(仕事に対する熱意 — 自分達の山は自分達で責任をもって全員参加で作っていくという気持)

(安全に対する熱意 — 全員参加で山作りをして行くためには、みんながケガをせずそろって和気あいあいとやってゆくことが大切だと考えている)

#### III まとめ

以上いろいろと書き連ねたが、既にみなさんもお気づきのとおり、いずれも別段目新しいものではなく、誰でも同じように行っていることだと思う(中にはもっと進んだ事をやっておられる方もあろうとも思うが)。わたし達は以上のような基本的なものについて、自分たちなりにアレンジしたものであり、これが現在の私たちの職場での活動である。私たちの9年間の無事故無災害はこれらを基礎として築き上げて来たといっても過言ではないと思うし、自分達で山に接し、自分達の山は自分達で責任を持ち、全員参加の山作りに徹してきた時間であったと考え誇りに思っている。

#### おわりに

国有林野事業を取りまく環境もますます厳しくなる中、改訂改善計画を進めて行くためにも、これからも力をあわせ協力しあい、災害のない職場作りに努めていくことが将来必ず実を結ぶと信じ、今後も努力していきたいと思う。

これからも今まで以上のご指導をお願いしたい。